

和歌山県田辺市

株式会社 中川

企業等
の農業
参入

木を伐らない林業で
持続可能な林業を目指す



取組内容

- 「木を伐らない林業」を提唱し、育林に特化した林業を行う。林業用大型ドローンを活用した植林用資材の運搬の省力化、安全性の向上、女性雇用の創出、田辺市との災害時資材運搬協定締結による地域貢献等に取り組む。
- 年間平均70haの植林、350haの育林、4,000haの山林を地元の伐採業者と連携して管理、耕作放棄地等を活用して、約10万本の苗木生産を行う。
- 地域の子供たちや高齢者が通学中、散歩中に拾ったドングリを地域の中学校、障がい者雇用施設や中小企業と連携して育苗。ドングリの苗木の植林は、CO₂の吸収、獣との共生、伝統産業である製炭業の継承、花粉症対策等、様々な効果が期待。
- 林業を通じ、雇用創出、里山再生、郷土樹種の保全、生物多様性を持続可能にする当社のビジネスモデルを元に、社内で育成した研修生や従業員が9都県で7社を起業するなど、毎年全国に起業家を輩出中。
- 令和5年12月、丸紅(株)、(株)中川、Deep Forest Technologies(株)の3社によるJ-クレジット創出に関する連携協定を締結。

取組に至った経緯

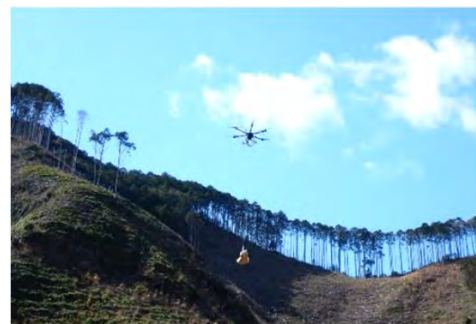
- 地域の過疎化の進行に対して、地域で働くことの自由度と今ある「あたりまえ」を後世に残すことを生業とするため、平成28年に、木を植えて育てることに特化した株式会社中川を創業。

取組の成果(受賞等)

- 令和3年度INACOMEビジネスコンテスト優秀賞
- 令和5年度第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝に選定
- 令和5年度気候変動アクション環境大臣表彰(普及・促進部門)大賞

今後の展望

- 全国に起業家を創出することで、林業従事者がノマドワーカーとして自由に移住しながら働ける環境を作り、より幸福度の高い生活の提供を目指したい。
- 育てたドングリ苗を実際に植樹に来てもらえるよう里山と都会の架け橋となり、関係人口の増加に繋げたい。



開発した林業用大型ドローンの活用により、約25kgまで苗木等の資材運搬が可能となり、作業員の負担軽減や効率化に繋げている

和歌山県紀の川市

株式会社ヨシムラファーム

企業等 の農業 参入

資源循環型農業で地域の活性化を図る



吉村社長

取組内容

- 和歌山県紀の川市の株式会社ヨシムラファームは、和歌山県北部で汚泥リサイクル事業を行う株式会社ヴァイオスの子会社として平成22年5月に設立され、社員は20名（常勤5人、非常勤15人）で、親会社で製造される汚泥肥料を使って10.0haの農地の土づくりを行い、主にニンニクを栽培している。

取組に至った経緯

- 親会社の㈱ヴァイオスは、平成15年の廃棄物の海洋投棄全面禁止（ロンドン条約）を機に、廃棄物のリサイクルビジネスに参入（汚泥の堆肥化ビジネスモデルとして環境省の認定を受ける）。当初、農家への肥料販売を行っていたが、自ら資源循環型農業を始めることとし子会社を設立。

取り組む際に生じた課題と対応

- ニンニクの栽培技術については、青森県や岐阜県の産地生産者との交流や、ネット情報の知識も参考にしながら技術を習得、排水対策や雑草対策については、地元生産者との連携や視察で得た知識により対策を講じた。販路は量販店バイヤー等と直接交渉することで開拓。

取組の成果

- 資源循環型農業を実践し推進することで、地元生産者等（地域の農業者や農業委員会、地元自治会）と遊休農地や耕作放棄地を提供してもらえる信頼関係を築くことができ、遊休農地や耕作放棄地の再生に繋がっている。

今後の展望

- 今後、農業ビジネスによる利益を設備投資に回して更なる生産性向上を図り、従業員給与と地域（農業）への還元（納税、雇用、地域のニンニク栽培に係るノウハウ提供等の貢献）を目指す。



ニンニクの乾燥及び貯蔵（冷蔵）施設

滋賀県守山市

グリーンエコスター株式会社

企業等 の農業 参入

滋賀県から、
どこよりも安心・安全で
おいしい野菜・果物を食卓に



取組内容

- 株式会社万代リテールホールディングスのグループ農業法人として、滋賀県守山市でいちご、野洲市で小松菜、みずな、かぶらを栽培。収穫した作物は自社グループの食品スーパー万代、スター株式会社で販売。

取組に至った経緯

- 企業版の地産地消を目的に、全国的にも例の少ない流通系（食品スーパー）の自社農園として2005年に設立。
- いちごの栽培は全国でも最大規模の約10万株、年間生産量は約100トン。

取り組む際に生じた課題と対応

- 栽培には、試行錯誤の結果、魚粉・米ぬか・骨粉等を原料とした有機肥料を使用することにより、食味を向上させた。
- 台風の被害を受けハウスが全壊した経験から、風速50メートルにも耐えられる強靱なハウスを導入。
- ハウス内の空調管理を自動制御で行うなどスマート農業の最新技術を積極的に取り入れたり、グローバルG.A.Pを取得するなど従業員の安全や作業効率等を考えた職場づくりを目指している。

今後の展望

- 自社グループのすべての店舗においてグリーンエコスター産の農作物を販売できるよう、更なる規模拡大によって生産量を増加させる。
- 農福連携も視野に、障がい者の雇用にも力を入れるとともに、独立希望の就農者（研修生）の受入れも引き続き積極的に行っていく。



自動制御の空調設備を備えたハウス



有機肥料で栽培した完熟いちご

奈良県宇陀市

有限会社 類農園

企業等 の農業 参入

自然に学び、いのちを育てる



取組内容

- 有限会社類農園は、奈良県宇陀市と三重県に農場があり、宇陀市の農場では、循環型農業を実践した有機野菜(2017年有機JAS認証を取得)を栽培。
- 独自の流通網を構築するとともに、都市部である大阪府内の3ヶ所で都市と農村を繋ぐ直営の直売所を運営し、自家農園の有機野菜の他、奈良・三重・和歌山の提携生産者の農産物を販売。

取組に至った経緯

- 株式会社類設計室は、創業以来、官公庁舎、教育施設、先端企業オフィス等の設計や地域を巻き込んだまちづくりを手掛けてきたが、1999年に景気の悪化による将来の不透明さから他事業への参入を検討。当時、食の安全・安心への関心の高まりや、農の担い手不足が顕在化していたこともあり、「将来、企業がこういった課題解決に期待される時代が来る」という結論から、農園事業部を立ち上げ、農業への参入を決定。

取り組む際に生じた課題と対応

- 農業参入当初は、有機・自然農法を評価してもらえる販路がなく、非常に厳しい経営であった。
- 自社で販路開拓をすべく直売所を設立し、都市部のニーズを掴むことはできていたが、周年で多品目を安定的に供給することを実現しないと都市部の消費者の満足を得ることができず、栽培計画を大幅に再考。

今後の展望

- 奈良県宇陀市に、オフィス、生産施設、流通施設、宿泊施設を複合した農業と学びの共創拠点を建設、2025年11月にプレオープンを目指している。全国初のオーガニックビレッジ宣言を行った奈良県宇陀市とも協働し、農業や教育を通じて、地域の活性化や担い手づくりにも取り組む。



大阪府内の直売所



宿泊・生産・流通施設外観イメージ

奈良県宇陀市

株式会社 はじまり屋

企業等 の農業 参入

身体と心の健康全体に関わり、
社会の未来に貢献を目指す



宇陀市内の農園にて はじまり屋の皆さん

取組内容

- 農業を通じて健康の本質を学びながら、地域の役に立つ企業であり続けたいと願い、令和元年に有機JAS認証を取得し、人参、かぶ、大根、トウモロコシ、ジャガイモ、たまねぎ、トマト等を生産している。
- 宇陀市のオーガニックビレッジ宣言を踏まえ、官民連携した有機農業の推進に参画しており、有機農産物の魅力を発信する活動を担っている。

取組に至った経緯

- 2013年、ロート製薬株式会社内にアグリ・ファーム事業部を立ち上げ、沖縄県石垣島で農業参入をスタート。
- 翌年、創業者の生誕の地である宇陀市で人の縁により創業者の家の周辺で農地を借り上げることができ、完全子会社として設立。

取り組む際に生じた課題と対応

- 有機栽培の技術や知識がなかったことから、有機農業に取り組む農家での研修により技術を学ぶとともに自社も技術取得に努めてきた。しかし、有機栽培は雑草の除去に労働時間の多くを取られることから、その労働力を確保するため、安定した雇用に努めている。
- 中山間地域では法面の傾斜が急であり機械化も難しく、今後、経営規模を拡大するためには、更なる労働力の確保が必要。

今後の展望

- みどりの食料システム戦略に沿って地域課題を農業を通じて解決していきたい。
- 今後、有機農業の何が良いのか(人体への影響等)、産官学連携してエビデンスを示していけるよう、企業であるからこそ、できることとして取り組んでいきたい。



堆肥づくり



にんじん畑での作業風景



完熟にんじんジュース

奈良県宇陀市

奈良みらいデザイン株式会社

企業等 の農業 参入

地域未来をデザインする



取組内容

- 奈良県奈良市にある奈良みらいデザイン株式会社は、株式会社南都銀行のグループ会社として、2021年4月の設立以降、古民家再生を中心に空き家、空き店舗の利活用を通じた賑わいのあるまちづくりや、奈良県の特産品を全国の消費者に届けることで、「奈良に訪れたい」仕組みづくりを行っている。
- 2022年度には、新たに宇陀市でアグリ事業部を立ち上げ、中山間地域で「持続可能な農業」を確立することで、後継者や新規就農者が増加し、耕作放棄地が減少する農業を目指して米作りにも取り組んでいる。
- 2024年度には、みどりの食料システム戦略に基づく、農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」にも取り組んでいる。

取組に至った経緯

- 株式会社南都銀行が地方創生に資する活動として、2020年から10年後を見据えた経営計画で、銀行業務の枠にとられない地域経済の発展を目的とした事業展開として、グループ会社等とともに設立した。
- 奈良県南部の主幹産業である農業における課題解決に向け、地域の仕組みづくりや経営指導を行うことを目指しスタートした。

今後の展望

- 自社のパイロットファームを通じた就農モデルを確立し、後継者や新規就農者の増加を目指す。
- 有機JAS認証の米栽培の普及や地域の農産物を活用した6次化商品で地域を活性化させる。
- 農福連携による業務委託を農業分野での人手不足解消策として認知させ地域展開で普及させる。



安心・安全の有機米です
環境に優しい有機栽培
「みえるらべる」
星3つ☆☆☆



有機米栽培で活躍！
アイガモロボと
水位センサー

京都府南丹市

有限会社るり溪やぎ農園

企業等の農業参入

農福連携を目指して農業に参入、農業と畜産・加工品の製造・販売を展開



取組内容

- 水稻(キヌヒカリ)や野菜(玉ねぎ、人参、キュウリ等)の生産、山羊の飼育、チーズ等の加工品の製造を行い、株式会社アットホーム(関連会社)が運営するグループホームで提供するほか、食品の配送事業者等に販売。
- 飼料価格の高騰に対応するため、2023年からWCS用稲の栽培を開始。

取組に至った経緯

- 化学肥料を使用せず、農薬の使用を抑え、環境にやさしい循環型農業を目指し、人と自然が共生し、人と人が共に助け合って生き、交流する場として2005年に設立。

取り組む際に生じた課題と対応

- 開始当初は、販路拡大と栽培技術の向上が課題だった。人のつながりの拡大と、栽培データの蓄積で改善してきた。

取組の成果(受賞等)

- Japan Cheese Awards 2024 フレッシュ/プレーン部門 最優秀部門賞受賞

今後の展望

- 山羊の飼育頭数を増やし、チーズ等の加工品の生産を拡大する。
- 自然環境を活かした観光農園やレストランの運営などの新たな事業展開を図る。



飼育している山羊



WCS用稲の収穫

京都府京丹後市

株式会社京つけもの西利ファーム

企業等 の農業 参入



京つけもの伝統、文化をまもる

取組内容

○（株）西利は「旬 おいしく、やさしく。」という目標に向かって、京漬物のブランド価値を高め、安心安全かつ高品質な漬物をお客様のもとへ届けたいという「こだわり」がある。株式会社京つけもの西利ファームは京丹後地域に密着した試験研究機関であり、京丹後地域の契約農家との連携の中で、西利ファームのトライ＆エラーから得た知識や技術を契約農家に共有し、野菜作りのノウハウを普及させることで京丹後地域の農業の発展に繋げている。また、漬物の製造過程で出た野菜の皮や切りくずを、微生物を利用して自然発酵の力で堆肥化し畑へ還元する、循環型農業にも取り組んでいる。

取組に至った経緯

○ 西利で使用する野菜は主に契約農家から仕入れているが、京丹後地域には西利が当地に農業参入する以前から漬物原料である聖護院かぶらを中心とした契約農家が存在しており、西利加工野菜部会を形成して30年以上のつながりがある。西利で使用する野菜は味や品質にばらつきがないよう規格を設けており、品質をまもるために常に研究と試行錯誤を行う必要がある。このため、原料野菜の品質管理や安定した供給を行うための試験研究機関として当地に農業参入することとした。

取り組む際に生じた課題と対応

○ 参入当初、京都府農業関係部署や地元のJAから、栽培面での技術指導を受けた。また、契約農家とは聖護院かぶら、千両茄子の栽培に関しての情報交換を盛んに行うことにより、栽培に関する様々な課題に対応している。

今後の展望

○ 京つけもの伝統、文化をまもるため、また、人にも環境にも「やさしい」循環型農業の継続のため、西利ファームで取り組んできた野菜づくりのノウハウを普及させることにより、京丹後地域の農業を活性化させる一端を担っていきたい。



京つけもの 千枚漬

大阪府河南町

はるちかファーム(株式会社近鉄百貨店)

企業等
の農業
参入

「ブランドいちご」
「紅ほっぺ(はるかすまいる)」で
農業へ参入



取組内容

- 大阪府河南町に圃場はるちかファームを新設し、いちご生産事業を開始。また、令和6年度から、マンゴーのハウス栽培も開始。
- 近畿日本鉄道沿線や百貨店店舗のある地域と連携しながら、地域のPRや活性化に貢献。

取組に至った経緯

- ESGに配慮した取組として「地域に寄り添い、地域と生きる」を推進する中、「良いもの、おいしいもの」を提供したいという思いを追求した結果、農業部門に参入。
- 百貨店の販路、販売出口を持っていたため、高品質な商品を手頃な価格で提供することで百貨店の販売力を強化できると考えた。

取組の成果(受賞等)

- 近鉄グループの物流網により、農園から百貨店の売場へ直送する物流スキームを実現。また、おいしくて新鮮ないちごを各店に配送、消費者のもとへお届けすることが可能となった。
- いちごと栽培時期が異なるマンゴーの導入により、従業員の通年雇用が可能となった。

今後の展望

- 沿線価値の向上や地域活性化に取り組み、河南町での規模拡大を目指す。
- ブランドいちご「紅ほっぺ(はるかすまいる)」やマンゴーだけでなく、付加価値の高い他のフルーツ栽培も検討。



ハウスでの栽培の様子



近鉄百貨店での販売

大阪府交野市

野村ファーム株式会社

企業等
の農業
参入



「自然力栽培」で
循環型農業に取り組む

取組内容

- 住宅地に囲まれた自社農園で、パクチーを中心とした野菜や、自然環境を活かした原木しいたけを栽培。
- 原木しいたけは、竹林の中にほだ木(約45,000本)を並べ、自然環境で栽培。消費地に近く、その日に採れたしいたけを生で出荷できるという都市農業の強みを活かし、「森育ち」と名付けてブランド化を図り近隣の百貨店や直売所等で販売。
- パクチー等の野菜は、農薬や化学肥料を使わず環境に配慮した栽培を行っており、令和6年12月に有機 JAS の認証を取得した。また、汲み上げた井戸水で金魚や鯉などを飼育し、エサの残さやフン等に由来する養分を含んだ水で野菜を栽培する循環型農業に取り組む。

取組に至った経緯

- グループ企業が飲食事業に取り組んでおり、ベトナム料理店を2店舗経営。店舗で使えるパクチー等を生産するため、野村ファームを設立。食料自給率が低い日本で、自分たちで美味しい野菜を作りたいとの思いから、農薬や化学肥料を使わない環境に配慮した栽培に取り組む。

今後の展望

- 住宅地に囲まれているため住民の理解が不可欠であり、環境保全型農業への理解醸成を目的に、農業に触れるきっかけとして、野菜等の加工品の製造や消費者を対象にした宿泊もできるしいたけ狩りの観光農園を検討。
- 使用後の原木や竹林の竹などをバイオ炭にして畑の土づくりに活用し、資源循環型農業を拡大したい。



竹林に並べられたほだ木

兵庫県西脇市

株式会社いけうち

企業等
の農業
参入

霧を使った新しい栽培システム



高糖度の霧のトマト

取組内容

○ 株式会社いけうちは、セミドライフォグ噴霧水耕システム (IKEUCHIPonics®)、冷房・加湿・薬液散布システム (CoolPescon®)により、霧のコントロールによるストレス栽培で高糖度トマトを栽培。システムの販売と栽培実証のため、モデル農場で高糖度トマトの周年栽培を実施。

取組に至った経緯

○ 本業である産業用スプレーノズルは、農業に活用できると考え、その技術を基にセミドライフォグ噴霧水耕システム (IKEUCHIPonics®) 冷房・加湿・薬液散布システム (CoolPescon®)を開発。(https://www.dry-fog.com/jp/products/ikeuchiponics/)

○ 工場がもともと西脇市にあり、何かあってもすぐ人が対応できる工場の近隣で農地を借用することができたため、施設を整備し農業に参入。



セミドライフォグ噴霧水耕システムの根域部

今後の展望

○ 試験農場では、他の品目の栽培試験を行っており、将来的に新たな作物を栽培する予定だが、当面はモデル農場の収益性をさらに高めることを優先。
○ 根域部をダイレクトに加温することにより暖房コストを抑え、農場の採算性を改善する技術を開発、実装。このシステムの安定性を高めて、収益向上につなげていきたい。

企業等の農業参入

「誰でもできる農業」を実現！
自然光利用型水耕栽培システムで

兵庫県播磨町

兵神機械工業株式会社



取組内容

- 兵神機械工業株式会社は、自然光利用型水耕栽培システム(オンディーネVH)によりサンチュ、クレソン、ベビーリーフなどを栽培。
- 水耕栽培システムの販売を主として、自社栽培によるシステムの実証、栽培データの集積、分析や市況の動向を把握することで、水耕栽培システムを導入した後もユーザーに対し、データ提供や情報交換を通じて農場運営をサポート。

取組に至った経緯

- 農業者の高齢化が進み、後継者不在により放置される農地に対して何かできないかと考え、本業の船舶用ポンプ等の技術を活かして自然光利用型水耕栽培システム(オンディーネVH)を開発し、本社のある播磨町で農業に参入。(https://hsn-farm.com/)

今後の展望

- ハウスの増棟などによる栽培面積の拡大は考えておらず、現状の施設・人員で、栽培データに基づいた、より効率的な生産による売上増を目指す。
- 当社の水耕栽培システムは、障がい者が働きやすいように、ユーザーに対し環境整備の提案や栽培マニュアルを提供。今後も、障がい者が普通に働き、社会貢献できる手法のひとつとなるよう、更なる改良を図る。



水耕栽培システムの栽培台とハウス

兵庫県朝来市

株式会社NOUEN

企業等
の農業
参入

農業を通じて人を笑顔にする
ふるさとに農業で貢献



取組内容

○ 朝来市の特産農産物である岩津ねぎ(2.1ha)を中心に、減農薬・減化学肥料のコシヒカリ(8.4ha)や朝倉山椒(0.3ha)を栽培。6次産業化に取り組み、岩津ねぎを使用したコロッケ等の加工品の製造・販売事業に取り組む。また、地域の農家から依頼があり、水稻の田植えや収穫、乾燥調製作業も受託。

取組に至った経緯

- (株)NOUENの親会社である(株)ファントウは、2000年に設立したシステム開発等のサービス事業を展開する岡山市の企業。当社の代表が出身地である朝来市に帰省の度に増える耕作放棄地を見て、「生まれ育った地域、恩人に何か貢献できることはないか」との故郷への思いから農業への参入を決意。
- 2013年に(株)ファントウに農園事業部を立ち上げ、岩津ねぎの栽培を開始。2018年に農業が軌道に乗ったところで農園事業部を分社化し、(株)NOUENを設立。

取り組む際に生じた課題と対応

- 岩津ねぎや米の販売価格は、市場価格に左右されないよう自社で決めた価格で商談し、親会社のファントウを通じた取引を実施。
- 取引先は、商談会への参加等を通じて確保。商談先には、岩津ねぎの解禁日のお知らせ等年に3~4回、手書きのご挨拶ハガキを送付。
- 岩津ねぎの規格外品を有効活用するため6次産業化に取り組む。

取組の成果

- 経営面積は、農業参入時(2013年)の0.6haから大幅に拡大し15.9ha。販売面も小売、中食、製造等様々な事業者と取引。

今後の展望

- 農地の受け皿となり規模拡大を図るとともに主力作物である岩津ねぎの生産に注力し、地域活性化に貢献。



挨拶ハガキ



6次化商品

兵庫県淡路市

(株)Awaji Nature Farm
(株)パソナ農援隊

企業等
の農業
参入

農業関係人口の創出



取組内容

- 農業生産・加工・販売、農作業の受託や農家レストラン「陽・燦燦(はる・さんさん)」の運営等。
- 化学肥料を使用せず、微生物を活性化させた土づくりと、栽培や出荷、レストランの調理過程等で発生する生ごみや畜産残渣を発酵堆肥に変える循環型農業に取り組んでおり、年間を通じて作物を出荷するために、多品目の栽培を行う。

取組に至った経緯

- 地方で新たな産業と雇用の創造を検討したとき、どこの地域にも存在し、高齢化で農業者が減少することで、新規参入のチャンスがある農業に着目したことが農業参入のきっかけ。

取り組む際に生じた課題と対応

- 農業参入を行う上で、栽培技術面等の課題に対しては、地元で農業をされている方に栽培指導者としてご指導いただき、外部研修等にも参加することで、栽培技術を習得。
- 販路の確保は当社グループで6次産業化中央サポートセンターを運営しており、そのノウハウ等を活用し、オリジナル商品の開発や農園で採れた作物の自社レストランでの使用、淡路島内レストランへの出荷、ネット販売等を行うことで対応。



(農園で採れた野菜を使用したサラダ)

今後の展望

- 「農業関係人口の拡大」及び「地域の未来につながる持続可能な農業」の実現に向け、市民農園及び宿泊施設の展開やワイン農場の企業によるオーナー制等、農業体験事業の拡大を行い、これまで農に触れてこなかった人、農に関心がなかった人の農への関わりの増加、循環型農業による収益性の拡大、農家レストラン事業の拡大等を行っていきたい。

兵庫県淡路市

株式会社池上農場

企業等 の農業 参入

地域の竹資源を肥料に活用し
特産物をブランド化



取組内容

- 2010年に建設業から農業部門を独立。化学農薬、化学肥料を減らした特別栽培をする中、病害を防ぐために竹の抗菌作用に着目し、農場周辺の放置竹林を竹粉肥料として活用してたまねぎを生産。
- 竹の成分が土壌微生物を活性化して栄養分を吸収しやすくなり、たまねぎの風味も豊かにすることで、オリジナルブランド「あやたけ」として、特性をPRし販売を展開。

取組に至った経緯

- 周囲で耕作放棄地が増えていく中、雇用の維持とたまねぎ産地としての生産振興を担うことで、地域を元気にしたいと考え、農業参入を決意。
- 近隣農地の受け皿となるため法人化し、独自ブランドを開発して持続的な農業を推進している。

取り組む際に生じた課題と対応

- 竹肥料などの適地作業を見直したほか、天候に左右されにくく従業員が作業しやすい、部門ごとのマニュアル作成により、作業を効率化。
- 輸出国側の基準をクリアするため、対応方法の詳細を見直している。

取組の成果(受賞等)

- 平成25年5月 6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画に認定。
- 令和3年11月 JGAP農場として認証を取得。

今後の展望

- 今後はブランドの輸出展開にも取り組み、さらなる品質向上と規模拡大を目指す。
- 作業管理のデジタル化により、職場環境をより改善して雇用を確保し、地域の発展に繋げていく。



竹粉肥料で栽培の「あやたけ」

奈良県桜井市

株式会社 Sakura Farm

企業等
の農業
参入

自然環境を守り、人間の命を
支えているという使命感



ハウス栽培のミツバ



春のカリフローレ畑



若い就農者が育てる露地栽培の白ネギ

取組内容

- 地域の耕作放棄地の解消や食料自給率の向上を目指し、お客様に「たいへん よくできました」がいただける作物づくりを企業目標として、リーフレタス、ミツバ、ほうれん草、白ネギ等で水耕栽培、ハウス栽培、露地栽培を実施。

取組に至った経緯

- 親会社(産業廃棄物処分量)の先代社長が、地域の耕作放棄地の拡大に不安を抱き、農業生産に携わるグループ会社を設立。

取り組む際に生じた課題と対応

- 本業のイメージもあり、農地確保については地域近隣へ人一倍の気遣いがあったことと、異業種からの挑戦であり農業分野に関するノウハウがほとんどなかったが、農地が所在する地域のベテラン農家や種苗メーカー、地方行政等から肥培管理などを学び、商品として出荷できる品質の作物を栽培できるまで成長。
- 農業大学で学んだ人材を採用することにより、栽培・出荷管理等が格段に向上した。

今後の展望

- 農業法人とはいえ休暇や給与面、福利厚生なども整備しておく必要があり、離職が発生しないように社内制度を整える必要がある。さらに、ビジネスである以上、利益が出せる経営を追求しつつ、引き続き、地域の耕作放棄地の解消、自給率の向上に貢献していきたい。



ちぢみほうれん草、ネギ等の自社商品

和歌山県白浜町

株式会社 三舞^{みまい}ファーム

企業等
の農業
参入

親会社のサツマイモ
菓子製品加工場

新たな和歌山の名産品を世界へ

鎌倉会長

取組内容

- 和歌山県白浜町の株式会社三舞ファームは、梅・みかん加工品の製造販売や東京で外食店舗を展開する(株)紀州鶯屋(株酒のかまぐらのグループ会社)の子会社として令和4年6月に設立され、親会社が製造するサツマイモを使った菓子製品の原料となるサツマイモの生産を担っている。

取組に至った経緯

- (株)紀州鶯屋は若者需要が減っている和歌山特産の梅・みかんに次ぐ特産品として、新たな紀州名産品を開発することとした。

取り組む際に生じた課題と対応

- 土づくりの基本的なことは地元農家に指導してもらい、サツマイモ栽培の全般的な知識については、鹿児島県や茨城県の有名産地に出向いて見学した。販路についてはサツマイモの大半は原料として親会社に販売し、製造したサツマイモ菓子製品の販路については、(株)酒のかまぐらグループのネットワークを使って開拓。

取組の成果

- 新たな紀州名産品として女性に人気のあるサツマイモを使った菓子製品開発に伴い、近隣のサツマイモ栽培に適した遊休農地において、原料となるサツマイモを生産する子会社を設立。
- 白浜町にあるホテルでの販売が好評であり、口コミで問屋からの引き合いも増加しており、好調に販売が伸びてきている。また、地域に溶け込み地域の方からアドバイス等をいただける関係ができた。

今後の展望

- 今後は当初の目標利益(320万円/人)を達成するため、サツマイモの栽培面積を6haまで拡大し、黒字化すれば常勤の従業員を1名増やしたい。また、フードックスへの出展を通じての海外への販売拡大も図りたい。



フードックスでの出展

京都府京丹後市

福喜農園(株)

企業等
の農業
参入

お茶を京丹後市の基幹産業に

取組内容

- 京都府京丹後市の国営農地32haで茶を栽培。
- 京丹後市、JA、当社を含むお茶の生産者らが共同出資して、京丹後市内に製茶工場を平成22年に建築。
- 平成29年には、茶農家と京丹後市、京丹後製茶(株)とで「京丹後茶GAP推進協議会」を設立し、翌年には、JGAP認証を取得。

取組に至った経緯

- 代表取締役の松村氏は、建設会社の2代目であり、これまで事業を順調に進めてこられたのは、地域に認められて存続できてきたという思いが強く、地域に対する恩返しがしたいと考えていた。そうした中、京都府と京丹後市から、お茶の生産について提案を受け、友人らと共に新たに福喜農園株式会社を平成18年7月に設立。

取り組む際に生じた課題と対応

- 設立メンバー4人はいずれもお茶の栽培経験がなかったが、茶園の実務担当者が参入前に京都府宇治田原町の茶園で研修を受け、参入後は京都府の丹後農業改良普及センターから栽培技術の指導を受けることで対応。

今後の展望

- お茶は苗木を植えてから摘採できるまで5～6年掛かるが、これまで規模拡大してきた茶園の木が成木になったことから、今後は全ての茶園からの収穫が見込まれ、安定した売上が期待される。



福喜農園の乗用型茶摘採機



京丹後市産のお茶

京都府亀岡市

一志アグリシステム合同会社

企業等
の農業
参入

安心・安全・新鮮な食材を
消費者のもとへ



取組内容

- 3.3haの耕作面積のうち、コシヒカリ2ha、伏見とうがらし1.3haなどを栽培。
- 農薬の使用を極力控え、野菜本来の味を追求。
- 販売先は、京都府内の飲食店・加工業者・観光施設・社会福祉法人、大阪市内の弁当業者等。
その他に亀岡市のふるさと納税返礼品として提供。
- 休耕田や耕作放棄地を引受け、地域の「人おこし・まちおこし・産業おこし」に貢献。

取組に至った経緯

- 一志株式会社が、社員の福利厚生として農産物の栽培に取組んでいたが、亀岡市に立地する企業として地元貢献すべく「一志アグリシステム合同会社」として本格的に営農を開始。

取り組む際に生じた課題と対応

- 顧客から自社産にはない農産物を要望されることがあり、そうした需要に柔軟に対応するため、年度ごとに生産する品目を変更している。

今後の展望

- スマート農業の導入を推進するとともに、同業他社や地元農家との連携・協力体制を構築し、農産物の生産拡大を図る。
- 農業に従事する社員の雇用の確保、経営面積の拡大及び売上げの向上を目指す。



新設したビニールハウスと伏見とうがらしのほ場

京都府福知山市

井上株式会社 THE610BASE(ムトベース)

企業等
の農業
参入

廃校を活用した地域活性化の
取組でいちご摘み取り園開設！



取組内容

- 廃校となった小学校をリノベーションし、体験型農業施設として2020年より管理・運営。
- いちご摘み取り園(ビニールハウス7棟21a)には、年間5,000~6,000人が来園。
- 地元生産者と共同栽培した大麦とホップを使用し、クラフトビールを生産(校舎内に醸造所を設置)。
- 農産物は、直売のほか、施設内カフェでの提供、ジャム等の加工品を製造・販売。
- 地元野菜販売イベントを開催し、地域に貢献。

取組に至った経緯

- 地域密着企業として、地元の課題解決に貢献するため、新規事業として農業分野に参入。
- 社内にアグリライフクリエイティブ課THE610BASE(ムトベース)を開設。
(ネーミングは旧中六人部小学校より)
- 関係人口を増やし地域を活性化させるため、集客力のあるいちごの摘み取り園の運営に着手。

取り組む際に生じた課題と対応

- 栽培技術の習得に苦慮していたが、市内のいちご生産者から栽培技術の助言・協力を受け、インターネット上の情報等も参考に栽培技術を習得。
- 安定した生産を行うため、温度・湿度・二酸化炭素等の状況を常時監視できるIoT技術を導入。

今後の展望

- GLOBALG.A.P.の取得を目指す。
- いちごの付加価値を高めビジネスとしての成功を目指す。
- 福祉学校や福祉事業所と連携し、実習生の受入や障害者雇用を進める。



THE610BASEの全景と施設内の様子

兵庫県豊岡市

株式会社Teams

企業等の農業参入

耕作放棄地解消と地域活性化を目指して



取組内容

- 豊岡市日高町の株式会社Teamsは、株式会社巴建設の代表取締役が2009年に設立。
- 豊岡市日高町の6地区（伊府、夏栗、浅倉、庄境、岩中、神鍋高原）にほ場が約11haあり、水稻（コシヒカリ等）、野菜（にんじん等）のほか、施設（ハウス）でメロン、スイカ等を栽培し、「楽農や」の屋号で販売。
- 地域住民の方のお役に立てればと思って、地域の人の困りごとを解決する「Teamsの猫の手サポート」という便利屋を開業し、庭の草むしり、家事手伝い、買物代行など小さなことから大きなことまで様々な作業を受託。

取組に至った経緯

- 昔懐かしい田園風景の面影が色褪せ、耕作放棄地の増加、高齢化・人口減少に伴う地域活動の停滞等様々な問題を抱える中山間地域の実情を見て、耕作放棄地の解消、地域雇用の創出、地域活性化を目指して農業参入。

取り組む際に生じた課題と対応

- 参入当初は農業経験者もおらず手探りの状態で営農を開始しましたが、参入から4、5年経過しても収穫量が思うように上がらず、農業経験者を採用するとともに、行政等からも指導を受け、収穫量、収益が向上。

今後の展望

- 経営面積が毎年1ha拡大する中、栽培作目については、定番の主力品目（にんじん、スイートコーン、スイカ、白ネギ）以外は市場ニーズにあわせて柔軟に対応。
- 雇用の確保が難しくなっている中、新卒者、経験を問わず積極的な雇用受入れの継続。



猫のサポートチラシ



ネット販売している
ごちそう野菜セット

奈良県大淀町

近鉄ふぁーむ花吉野

企業等 の農業 参入

安心できるおいしさを、食卓へ



取組内容

- 敷地面積1.5haで、完全人工光型植物工場と農業用ハウスで農業ビジネスを展開し、レタスと糖度の高いトマトを生産。

取組に至った経緯

- 近畿日本鉄道が所有地の有効利用とともに近鉄百貨店をはじめとするグループの流通店舗やホテル、レストランを通じ、お客様に高品質で安全・安心な野菜を届けるという考えのもと、2012年に「近鉄ふぁーむ花吉野」を開業した。



植物工場の様子

取り組む際に生じた課題と対応

- トマトの糖度を高めるために水分ストレスをかける栽培技術を試行錯誤し、必要最小限の水で栽培できるモイiscalチャーの技術を導入することとした。
- 自社ブランド化による付加価値を高めていくことが今後の課題。

取組の成果

- 糖度を高めたトマトは、販売店舗から追加発注や「トマト嫌いの子どもでも喫食できた」など高い評価を得ている。また、野菜の配送に鉄道輸送を取り入れたモーダルシフトへの転換で環境に配慮した取組も実施。

今後の展望

- 今後は、お客様ニーズに応える商品づくりと、農業を通じた沿線地域の活力向上に貢献したい。



商品ラインナップ